

# 景況調査

報告書 NO. 51

平成23年 4月～6月 実績  
平成23年 7月～9月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

# 平成23年度第1四半期(H23. 4～6月)景況調査

1. 調査時点 平成23年6月10日～30日

2. 調査対象

- (1) 対象地区 蒲郡市内
- (2) 対象(回答)企業 136企業[129企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	50 (3)	13 (2)	19 (1)	31	14 (1)	6	133 (7)

※ ( )は団体

5. 概況

**全業種総合判断DI値(当期実績)**は、前年同期比で△27.1、前期実績(1～3月・△9.4)と比較すると17.7ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、前期比については△29.4、前期実績(1～3月・△28.8)と比較すると0.6ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△32.3、前期実績(1～3月・△27.3)と比較すると5.0ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。また、**収益DI値**については前期比で△35.4、前期実績(1～3月・△30.9)と比較すると4.5ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H23.7～9月)見通し**については、△13.5、前期実績(1～3月・△24.5)と比較すると11.0ポイントの上昇、改善の見通し。

「**製造業**」のうち食料品は、水産加工は東北地方の取引先被災で調達ルート再構築の時期。海外との価格競争激化で、生産の海外依存加速を懸念。繊維物は、生産国内回帰が進む中エア織、ドビー織は好調も採算面は改善せず。漁網・ロープのうち、漁網は低調も、復興需要でロープは繁忙。建築用・スポーツ用のネットも堅調で、土木用ネットも今後に期待。鉄工のうち、工作機械関係は新興国・先進国需要で繁忙に推移。自動車部品関連は、震災後の回復途上も本格稼働はまだ先。夏季の休日シフトへの対応にバラつきも。化学・プラスチックのうち、化学工業は、円高＋原油等の原材料高騰と、震災後の原材料不足で採算悪化。電力不足も懸念。プラスチックも、原材料高騰で採算悪化で厳しい。今後の売上回復に期待。

「**建設業**」は、年度当初で公共工事の受注額は低迷。民間工事ともに厳しい状況が続く。建築資材不足も少しずつ解消されているが、依然として厳しい事業環境。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は 産業資材関連:原材料高騰による価格転嫁への理解に奔走。採算面で非常に厳しい。寝装関連:市場縮小を懸念も実需商品中心に動きは堅調。省エネ・節電で冷感素材に注目。晩夏の売上確保にやや不安。インテリア関連:震災後の出荷停滞が影響。秋以降の商品の発注が遅れ、製造に入れない。シーズンイン時の品不足を懸念。アパレル関連:横バイが微減で低調である。いずれの業界においても原材料(綿・化繊等)の高騰と価格転嫁、安定確保が共通課題である。

**全業種(当期実績)**

(DI 単位:%)

<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-28.5	-32.3	-17.3	H22. 4～6月実績	-20.0	-30.0	-26.4	-35.7	-26.2	-33.4	-30.3
②製品・商品在庫	-9.8	-8.3	-3.0	H22. 7～9月実績	-19.6	-14.0	-22.4	-23.9	-19.2	-23.5	-28.4
③資金繰り	-21.0	-20.3	-12.8	H22. 10～12月実績	-28.9	-16.3	-39.2	-31.1	-24.4	-25.2	-40.0
④採算(収益)	-32.6	-35.4	-20.3	H23. 1～3月実績	-11.5	-27.3	-23.8	-30.9	-9.4	-28.8	-24.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-3.8	2.3	1.5	H23. 4～6月実績	-28.5	-32.3	-32.6	-35.4	-27.1	-29.4	-13.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-27.1	-29.4	-13.5								

「**小売業**」は、被災地生産の商品が一部欠品続く。震災後の消費者マインドの変化に対応したい。またGOGO商品券による消費拡大に期待。飲食は、ランチは好調も夜は低調の傾向が続く。低価格化で個店は苦戦。石油は、中東アフリカ政情不安等による石油供給量減少のなか、国際情勢の変化でWTI先物原油価格も乱高下。震災後混乱した国内流通は正常化へ向かう。

「**サービス業**」のうち旅館関係は、4月は大きく低迷もGWは比較的好調。繁忙期である夏季に向け消費意欲の回復に期待。また、製造業の休日シフト変更への対応を検討。

「**運輸通信業**」のうち、海運は震災による製造業の動きは回復基調も、地場の荷動きは未だ鈍い。輸入は微増も輸出が停滞。円高および福島原発の沈静化までは継続の見込み。バス業界関係GW頃から動きが出始めるも団体旅行は全体的に減少。夏季に期待。

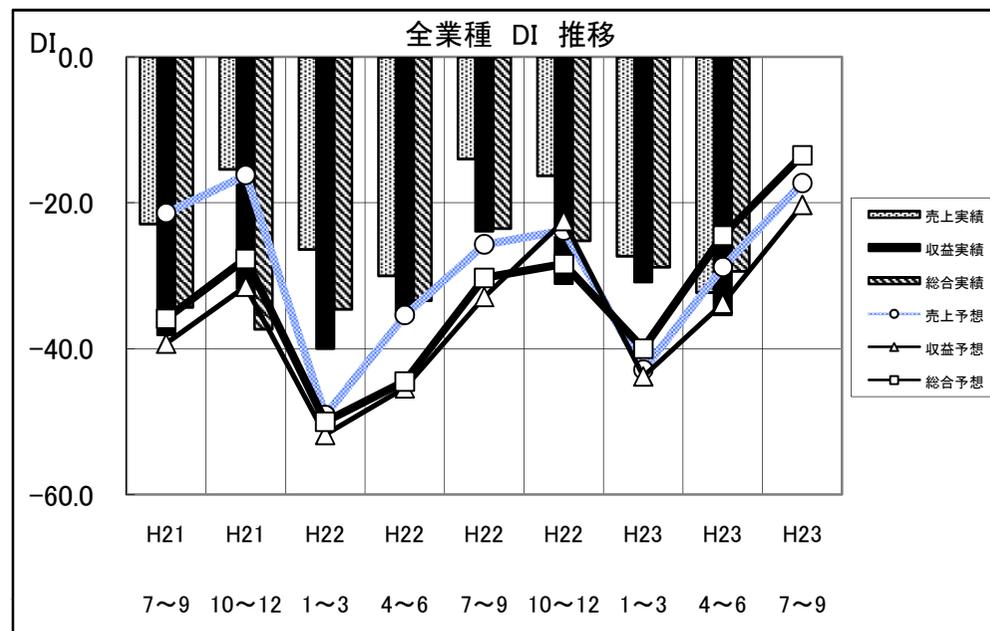
**設備投資状況**は、30事業所(43件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は28事業所(36件)が設備投資を計画している。

**経営上の問題点**では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、原材料(燃料)高、競争激化、消費者ニーズの変化の対応が項目別で上位を占めていた。

**当地区において** 東日本大震災の復興へ向け動き出す。製造業のサプライチェーンは正常化へ近づき、一部には復興需要も見られた。しかし、慢性的な売上低迷に加え、円高・原材料高騰で収益は圧迫され厳しい局面が続く。また、夏季の節電対策や、日本自動車工業会の休日シフト変更、消費者マインドの変化等も今後影響を及ぼす。当所としては、平成23年度事業計画にのっとりアクションプランを推進。新たに編成した5委員会も活性化させると共に、中小企業の経営支援も強化。地域一体となって経済復興・活性化を図る所存である。

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H23.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-22.9	-15.4	-26.4	-30.0	-14.0	-16.3	-27.3	-32.3	-17.3
収益	-38.1	-31.8	-40.0	-35.7	-23.9	-31.1	-30.9	-35.4	-20.3
総合	-34.3	-37.3	-34.6	-33.4	-23.5	-25.2	-28.8	-29.4	-13.5

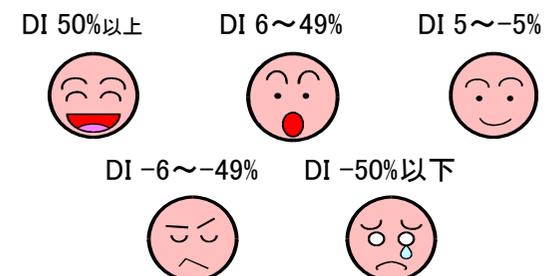
◎DI (ディフュージョン・インデックス 業況判断指数)について  
DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少)      採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)  
製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加)      従業員数 :DI=(増加)ー(減少)  
資金繰り :DI=(好転)ー(悪化)      業況(総合判断):DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き  
DIが0 ⇒ 景気横ばい  
DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)



## 6. 業種別報告

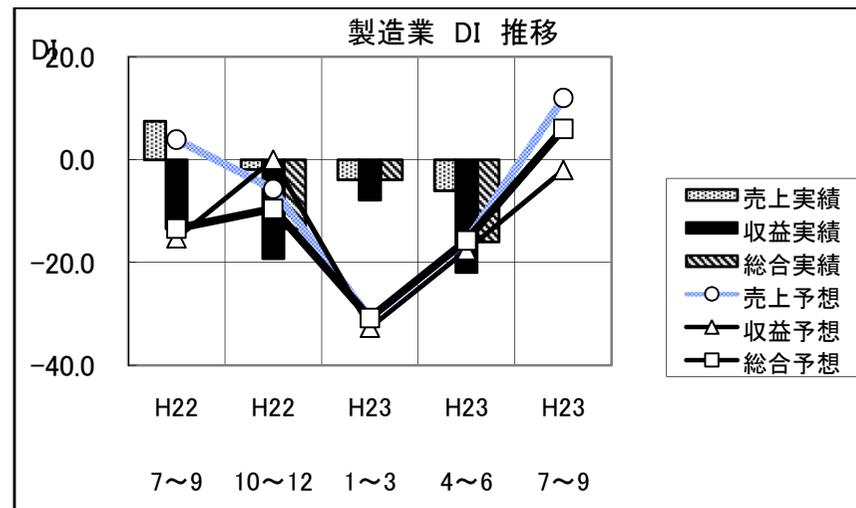
### 製造業

売上DI値は△6.0、前期実績1～3月期(△3.9)に比して2.1ポイントの下降、収益DI値は△22.0、前期実績1～3月期(△7.9)に比して14.1ポイントの上昇、総合判断DI値は△16.0、前期実績1～3月期(△3.9)に比して12.1ポイントの下降と、売上・収益・総合ともに僅かながら悪化傾向である。向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合ともに持ち直し改善傾向である。

### 製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	2.0	-6.0	12.0
②製品・商品在庫	-4.0	-6.0	6.0
③資金繰り	-16.0	-18.0	-2.0
④採算(収益)	-16.0	-22.0	-2.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	10.0	14.0	2.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-10.0	-16.0	6.0



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H23.1~3月	4~6月	4~7月見通し
売上	7.5	-1.9	-3.9	-6.0	12.0
収益	-13.5	-19.3	-7.9	-22.0	-2.0
総合	0.0	-13.4	-3.9	-16.0	6.0

### [食料品]

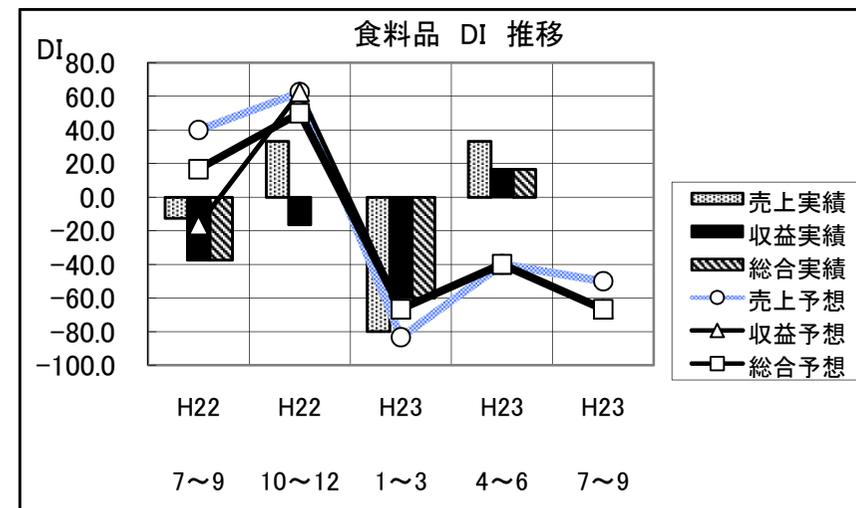
売上げは前年同期比ではDI値0.0%と横バイ、前期比ではDI値33.3%と需要の停滞していた前期からは好転の傾向。一方収益では、前年同期比DI値△50.0%と悪化しているが、前期比ではDI値では16.6%と好転の傾向にある。総合判断でも前年同期比はDI値△33.3%と悪化、前期比ではDI値16.6%と好転の傾向が見られる。原材料の調達に震災の影響が見られ、水産加工業者の中には、東北地方の原料調達先や加工先が被災した影響により、新たな調達先の確保などの対応を迫られた。

向こう3ヶ月の見通し 売上DI値△50.0%、収益DI値△33.3%、総合判断DI値いずれも△66.7%と業況の悪化が見込まれる。原材料・包装資材コストの負担感に加え、国内の食品業界は、海外製品との価格競争にさらされているが、震災後さらに海外生産への依存が強まることを懸念している。

### (食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	33.3	-50.0
②製品・商品在庫	-16.6	-16.6	-16.7
③資金繰り	-16.6	-16.6	-33.3
④採算(収益)	-50.0	16.6	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	16.6	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	16.6	-66.7



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H23.1~3月	4~6月	4~7月見通し
売上	-12.5	33.3	-80.0	33.3	-50.0
収益	-37.5	-16.6	-60.0	16.6	-66.7
総合	-37.5	0.0	-60.0	16.6	-66.7

## 【織物】

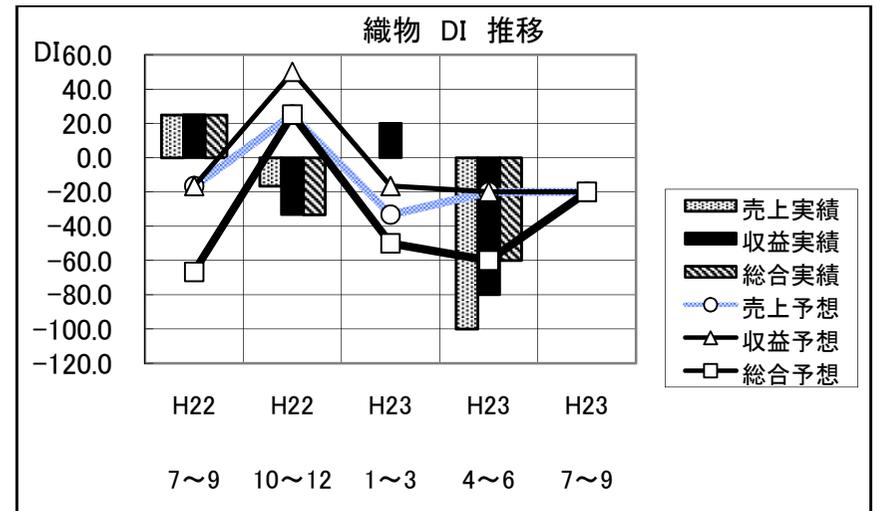
チャイナリスク回避による中国から国内への生産回帰が続く中、エア織機、ドビー織機は、ほぼ満杯であった。ジャガード織機によるインテリア・カーテン生地類は壊滅的。寝装品等も発注量は1～3月に比べ半減。採算は悪化しており厳しい状況が続いた。

向こう3カ月の見通し ドビー織機は7～8月は満杯であるが9月は不明。エア織機は1ヶ月先まで受注あり。ジャガード織機は相変わらず低調で、全体の2～3割のスペースのみ。来季は改善傾向にあるが、依然として水面下の状況である。

### (織物)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-80.0	-100.0	-20.0
②製品・商品在庫	-40.0	-40.0	-40.0
③資金繰り	-40.0	-40.0	-40.0
④採算(収益)	-80.0	-80.0	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-60.0	-60.0	-20.0



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H23.1～3月	4～6月	4～7月見通し
売上	25.0	-16.6	0.0	-100.0	-20.0
収益	25.0	-33.3	20.0	-80.0	-20.0
総合	25.0	-33.3	0.0	-60.0	-20.0

## 【漁網・ロープ】

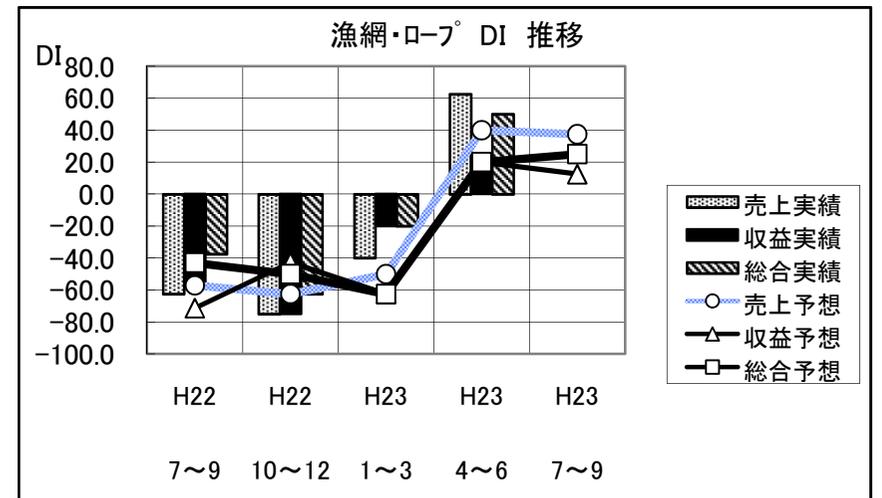
漁網関係は停滞も、被災地の復興需要でロープは生産・販売とも前年比増加で多忙極まる。但し、売掛債権放棄に伴う損失や、資金的背景に不安が残る。建築用ネット・スポーツネットは、とも良好である。土木ネットは、動きはあるが価格競争が激化。

向こう3カ月の見込み 漁網の見込みは厳しい。また、被災した漁業・養殖業への復旧支援が必要である。ロープは年内は繁忙である。建築ネットも年内は続く見込みである。スポーツネットは安定需要。土木・災害関連のネットは秋以降に期待。(繊維ロープ部会)

### (漁網・ロープ)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	75.0	62.5	37.5
②製品・商品在庫	25.0	25.0	25.0
③資金繰り	12.5	12.5	-12.5
④採算(収益)	37.5	25.0	12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	37.5	37.5	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	62.5	50.0	25.0



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H23.1～3月	4～6月	4～7月見通し
売上	-62.5	-75.0	-40.0	62.5	37.5
収益	-57.1	-75.0	-20.0	25.0	12.5
総合	-37.5	-62.5	-20.0	50.0	25.0

## [鉄工]

＜工作機械関係＞ 生産は繁忙に推移。外需頼みの生産増加が続き、受注は着実に増加。中国はじめ新興国の需要拡大と欧米市場での需要回復で拡大傾向が持続している。向こう3カ月の見通し 国内は、東日本大震災の影響で停滞の見込み。復興関連需要に期待。海外は、新興国・欧米で安定した拡大基調が続く。不安要因として、くすぶる欧州の金融不安、不安定な為替情勢、中国の金融引締め等での受注動向に注意。

＜自動車部品関係＞ 生産は、トヨタが6月9割生産と言われるが、下請け企業はまだ実感が無い。震災による部品供給不足が業界(国内外)に大きく影響。トヨタ関係の正常操業はもう少し先となり、部品供給が正常化されれば増産体制に入る。向こう3カ月の見通し 7～9月の土日操業の影響がまだ不透明だが、部品供給正常化で一挙に増産体制となり、国内生産は今年後半には、かなりの増産の見込み。各メーカーでは期間従業員を募集し、木曜の休日出勤を早くも打ち出している。(金属鉄工部会)

### (鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-18.8	-31.3	50.0
②製品・商品在庫	6.3	6.3	18.8
③資金繰り	-18.8	-31.2	25.0
④採算(収益)	-6.2	-37.5	43.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	6.2	0.0	12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.5	-37.5	50.0

## [化学・プラスチック]

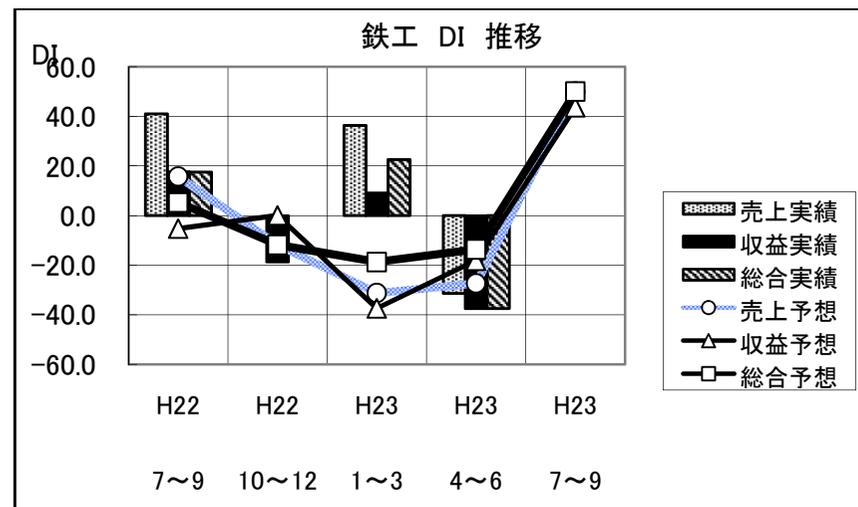
＜化学工業＞ 震災による原材料不足と、原油高による原材料価格上昇に円高も加わり、採算が大幅に悪化。

向こう3カ月の見通し 原油高は一段落したが国内需要に不安感有。電力不足の全国拡大も不安要素に

＜プラスチック＞ 震災による景気低迷で売上が25%ほど減少している。また、原油高により原料価格が高騰し、採算面でも苦しい実態が続いている。向こう3カ月の見通し 4～6月期と同じく震災による影響で採算面の悪化はまぬがれない。しかし売上に関しては多少の回復は見込めそうである。原料高による原料価格の高騰も続くと思われ、厳しい時期になる見通しである。(化学部会)

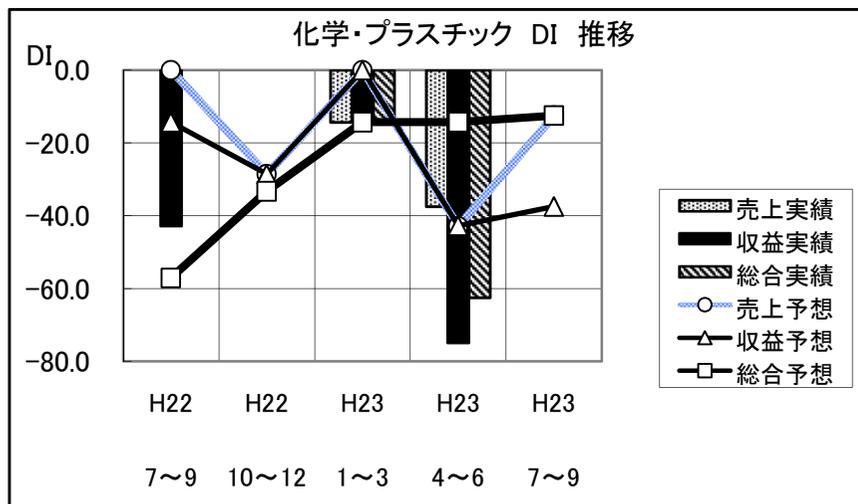
### (化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-37.5	-37.5	-12.5
②製品・商品在庫	-37.5	-37.5	0.0
③資金繰り	-37.5	-25.0	0.0
④採算(収益)	-75.0	-75.0	-37.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-62.5	-62.5	-12.5



#### ＜業況判断DIの推移＞

	7～9月	10～12月	H23.1～3月	4～6月	4～7月見通し
売上	41.1	0.0	36.4	-31.3	50.0
収益	17.7	-18.8	9.1	-37.5	43.7
総合	17.6	0.0	22.7	-37.5	50.0



#### ＜業況判断DIの推移＞

	7～9月	10～12月	H23.1～3月	4～6月	4～7月見通し
売上	0.0	0.0	-14.3	-37.5	-12.5
収益	-42.9	0.0	-14.3	-75.0	-37.5
総合	0.0	0.0	-14.3	-62.5	-12.5

## 建設業

売上DI値は△84.6、前期実績1～3月期(△50.0)に比して34.6ポイントの下降、収益DI値は△92.3、前期実績1～3月期(△56.2)に比して36.1ポイントの下降、総合判断DI値は△69.2、前期実績1～3月期(△56.3)に比して12.9ポイント下降と、売上・総合・収益全て悪化の傾向である。向こう3カ月の見通しいずれの項目も僅かに改善の見通しも、以前として水面下の厳しい状況である。

今期は、年度当初の公共工事の少ない時期であり、民間工事も競争激化により収益面で厳しく低迷が続く。また、震災の影響による建築資材不足は、改善しつつあるものの一部資材で引き続き続いている。資材確保や仕入価格上昇等の影響は続き、見通しは不透明である。また、防災意識の高まりを受けて、建設業界としても地域として、企業として、様々な観点からの取り組みの必要性を感じる。(建設部会)

## 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-61.5	-84.6	-61.5
②製品・商品在庫	-7.7	-7.7	-7.7
③資金繰り	-46.1	-61.5	-53.8
④採算(収益)	-76.9	-92.3	-76.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-69.2	-69.2	-61.5

## 卸売業

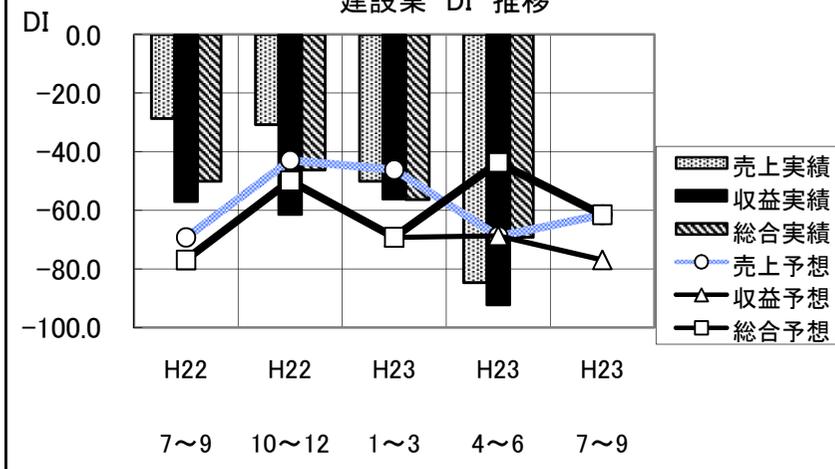
売上DI値は-15.8、前期実績1～3月期(-50.0)に比して34.2ポイントの上昇、収益DI値は△31.6、前期実績1～3月期(△45.0)に比して13.4ポイントの上昇、総合判断DI値は△26.3、前期実績1～3月期(△45.0)に比して18.7ポイントの上昇と、依然として水面下にあるものの売上・収益・総合ともに改善傾向であった。向こう3カ月の見通し 売上は悪化傾向であるが、収益は横バイ、総合は僅かながら改善傾向にある。

## 卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-31.6	-15.8	-36.8
②製品・商品在庫	-42.1	-31.5	-15.8
③資金繰り	-26.3	-21.1	-5.3
④採算(収益)	-36.8	-31.6	-31.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-10.5	5.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-21.0	-26.3	-21.0

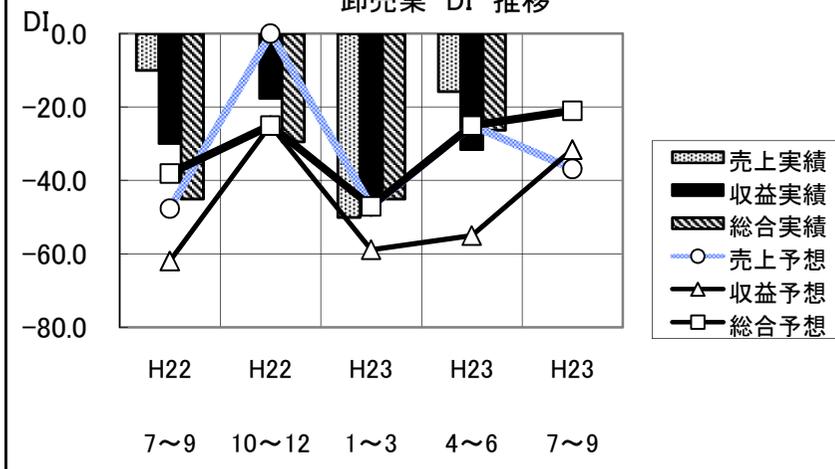
## 建設業 DI 推移



## <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H23.1～3月	4～6月	4～7月見通し
売上	-28.6	-30.7	-50.0	-84.6	-61.5
収益	-57.1	-61.5	-56.2	-92.3	-76.9
総合	-50.0	-46.2	-56.3	-69.2	-61.5

## 卸売業 DI 推移



## <業況判断DIの推移>

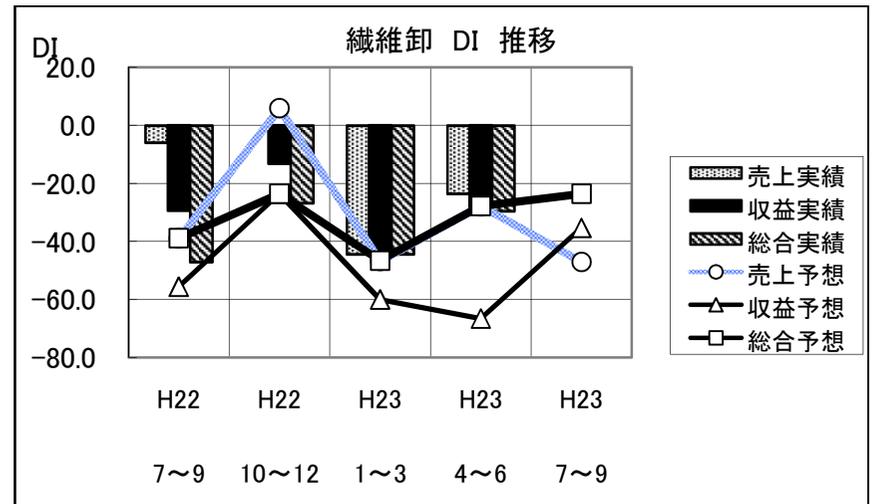
	7～9月	10～12月	H23.1～3月	4～6月	4～7月見通し
売上	-10.0	0.0	-50.0	-15.8	-36.8
収益	-30.0	-17.7	-45.0	-31.6	-31.6
総合	-45.0	-29.4	-45.0	-26.3	-21.0

**[織維卸]**

<産業資材関連>年明けは原材料高騰に伴う価格転嫁に奔走。震災後の4~5月は景気後退の中、価格先行で物が動かず。最悪期は脱し回復に向かうとの報道も不安要素が充満。産業・工業資材は一部特需もあるが先行き不透明。向こう3カ月の見通し 回復途上の復興需要に期待も、大幅改善は見込めず。<寝装関連>震災の影響を懸念するも実需商品中心に動きは堅調。特に省エネ・節電ムードの中、冷感素材へのニーズが高まり、店頭でも各売場にコーナーが設置されている。向こう3カ月の見通し 例年通り8月中は夏物中心の動き。但し、涼感素材は比較的在庫は少なく不足の可能性も。冬物導入は例年9月中旬頃で、8月中旬~9月中旬の売上が苦戦。<インテリア関連>震災以降、商品の出荷量、売上、発注が減少。向こう3カ月の見通し インテリアは、9月以降の商品の時期だが、生産スペース減少・染色整理工程の納期を考えると、早急な準備が必要も納品先から発注が出ず。シーズンイン時の納品遅れを懸念。<衣料関係>夏物商品出荷のピークも全体的に低迷。量販店向けは例年並み数量確保も、地方卸筋は横バイないし微減。東北地方の回復が遅れ気味だが、一部実用衣料について好調との声も。向こう3カ月の見通し 初秋~秋物商材のコストアップの価格転嫁に課題。商社・問屋の先物に対する約定がとりづらく、当用買いに近くメーカーリスクが増加。従来の売(織維卸)売上・数量の増加は見込めず。(織維部会)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年4月~6月 に比べて	前期比 平成23年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-23.5	-23.5	-47.0
②製品・商品在庫	-47.0	-35.3	-17.6
③資金繰り	-29.4	-23.5	-5.8
④採算(収益)	-35.3	-29.4	-35.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-5.9	5.9	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-17.7	-29.5	-23.6



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H23.1~3月	4~6月	4~7月見通し
売上	-5.9	0.0	-44.4	-23.5	-47.0
収益	-29.4	-13.3	-44.5	-29.4	-35.3
総合	-47.1	-26.7	-44.4	-29.5	-23.6

**小売業**

売上DI値は△54.8、前期実績1~3月期(△28.1)に比して26.7ポイントの下降。収益DI値は△32.3、前期実績1~3月期(△34.4)に比して2.1ポイントの上昇、総合判断DI値は△25.8、前期実績1~3月期(△37.5)に比して11.7ポイントの上昇と、売上は悪化も、収益・総合は改善傾向が見られるも、水面下の厳しい状況が続く。向こう3カ月の見通し 夏季に向け売上は僅かながら改善、収益・総合は悪化傾向にある。

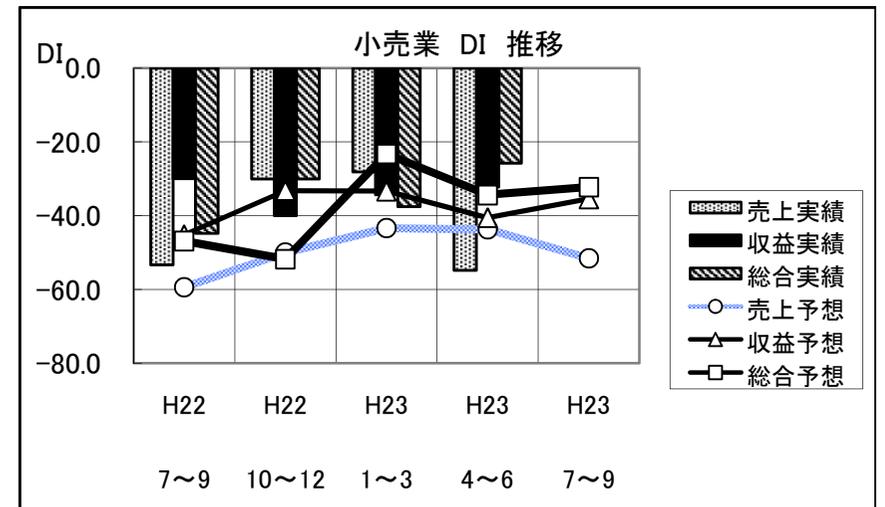
震災の影響によって、マスクや電池などのほか、被災地域の業者で製造されている商品が仕入れできず、品切れすることがあった。また、顧客の買い控えによって売上が思ったように伸びず、大変厳しい業況である。5月に発行されたプレミアム付商品券『蒲郡GOGO商品券』によって、蒲郡市全体の消費が拡大されているものと思われる。

向こう3カ月の見通し 顧客の買い控えによる厳しい業況が続くものと思われる。プレミアム付商品券『蒲郡GOGO商品券』は、有効期限が9月末までとなっているので、商品券の活用による消費拡大に期待したい。

**小売業**

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年4月~6月 に比べて	前期比 平成23年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-42.0	-54.8	-51.6
②製品・商品在庫	-6.4	-6.4	-9.7
③資金繰り	-19.4	-6.4	-19.3
④採算(収益)	-29.1	-32.3	-35.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.9	-9.7	-6.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-29.1	-25.8	-32.3



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H23.1~3月	4~6月	4~7月見通し
売上	-53.3	-30.0	-28.1	-54.8	-51.6
収益	-30.0	-40.0	-34.4	-32.3	-35.5
総合	-44.8	-30.0	-37.5	-25.8	-32.3

## [飲食]

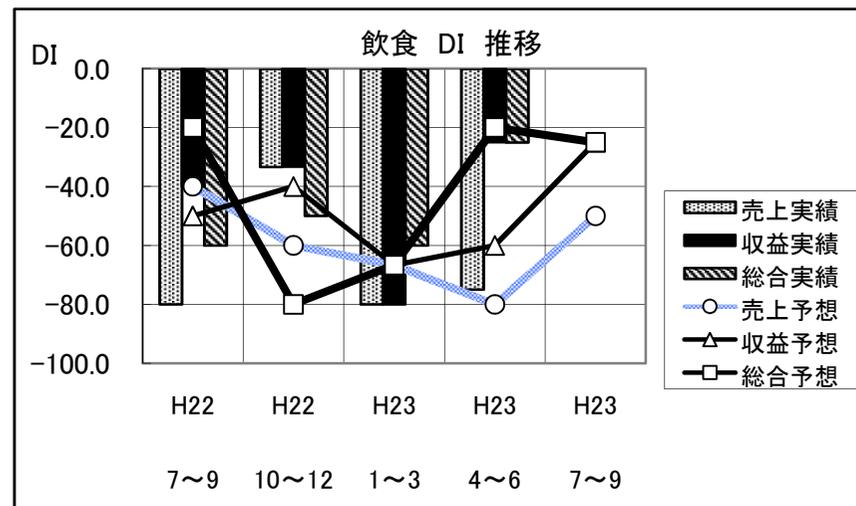
震災の影響で観光客は激減と聞いているが、地元客がメインの飲食店への影響は少ない。蒲郡GOGO商品券は、使用枚数が少なく、ちらほらという感じ。前回より飲食店での使用は減った感じを受ける。顧客の動向について、お昼のランチ客は入るが夜は少なく、客単価も低い状況は変わらず。「みかわアサリッチ」でお店の紹介はされているが、パンフを持って実際に来店する客は少ない。お店においてあるパンフを持ち帰るお客はいる。

向こう3カ月の見通し 地元客がメインであるため、今後の景況も大きな変化はない見込み。お祭り、海のシーズンであり、観光客は増加すると思うが、飲食店への影響は大きくない。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

### (飲食)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	-75.0	-50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-50.0	-50.0	-50.0
④採算(収益)	0.0	-25.0	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-25.0	-25.0



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H23.1~3月	4~6月	4~7月見通し
売上	-80.0	-33.3	-80.0	-75.0	-50.0
収益	-40.0	-33.3	-80.0	-25.0	-25.0
総合	-60.0	-50.0	-60.0	-25.0	-25.0

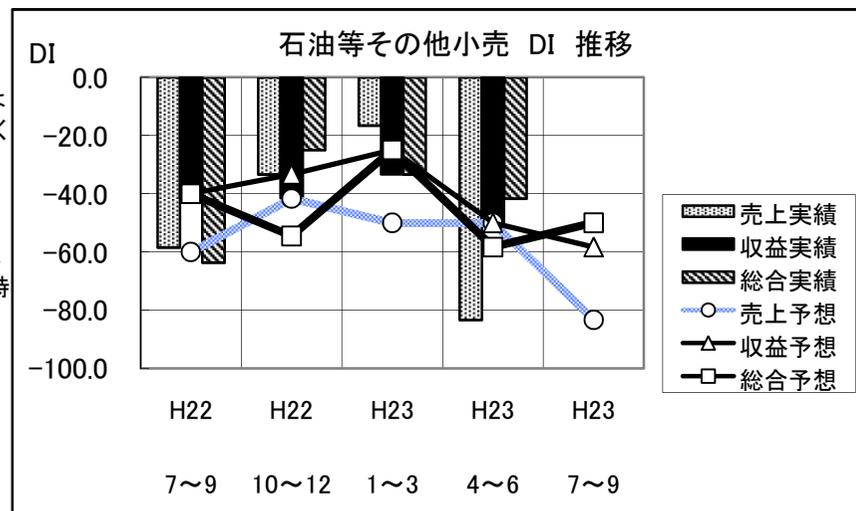
## [石油等その他小売]

原油価格は、中東情勢の悪化による供給不安から100ドル超えが続く。また、協調介入により一時値を下げている円も、再度円高が進む。6月に入っても、中東、北アフリカのデモの影響で供給不安が残るなか、米国雇用状況悪化による消費減退感、ビン・ラディン殺害により中東の地政学的リスク軽減でWTI原油は一時大幅に価格を下げたが、長引く供給不安・ユーロ高ドル安を背景に、再び100ドルを超えるなど不安定な状況。産業界では、工場の稼働低下で落ち込んでいた燃料や潤滑油の納入実績も、徐々に持ち直し始めた。向こう3カ月の見通し 現在の原油価格は下記の要因が関与しているものと思われる。①中東、リビアのデモによる生産、供給量の減少 ②福島原発事故による電力不足対応 ③インドネシア、中国、米国などの石油需要が経済成長、景気回復で大幅増加 ④米国金融緩和による余剰資金の市場流入。今後、原油価格は上げ下げを繰り返す荒い展開の中、7月は高値が継続。一方、製造業、特に自動車部品の生産水準が回復しつつあるなか、電力供給の制約やサプライチェーン立て直しの遅れ、原子力災害および原油価格の影響等により、景気が下振れする可能性もあり、注意が必要。(エネルギー部会)

### (石油等その他小売)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	-83.3	-83.3
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	-8.3
③資金繰り	-25.0	-16.7	-25.0
④採算(収益)	-41.7	-50.0	-58.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-8.4	-16.7	-8.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-41.7	-50.0



### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H23.1~3月	4~6月	4~7月見通し
売上	-58.4	-33.4	-16.6	-83.3	-83.3
収益	-41.7	-41.6	-33.4	-50.0	-58.3
総合	-63.6	-25.0	-33.4	-41.7	-50.0

## サービス業

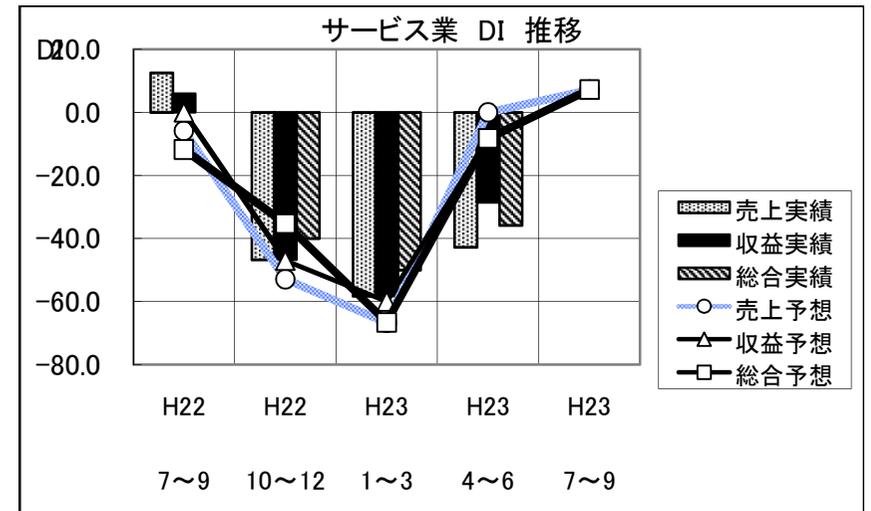
売上DI値は△42.8、前期実績1～3月期(58.3)に比して15.5ポイントの上昇、収益DI値は△28.6、前期実績1～3月期(58.3)に比して29.7ポイントの上昇、総合判断DI値は△35.8、前期実績1～3月期(△50.0)に比して14.2ポイントの上昇と、売上・収益・総合ともに改善傾向であった。

向こう3カ月の見通し 震災の影響は沈静化しつつあり、売上・収益・総合ともに改善傾向にある。夏季に向け消費意欲の向上を期待したい。

### サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-71.5	-42.8	7.1
②製品・商品在庫	-7.1	7.1	0.0
③資金繰り	-28.6	-28.6	-21.4
④採算(収益)	-57.2	-28.6	7.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-21.4	-7.2	21.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-42.9	-35.8	7.2



#### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H23.1~3月	4~6月	4~7月見通し
売上	12.5	-46.7	-58.3	-42.8	7.1
収益	5.9	-46.7	-58.3	-28.6	7.2
総合	0.0	-40.0	-50.0	-35.8	7.2

## 【旅館】

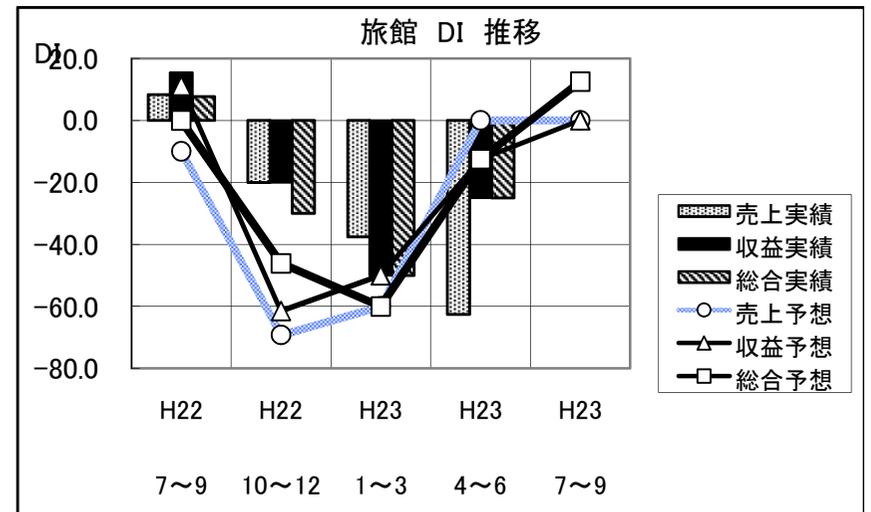
蒲郡全体で4月の宿泊者数が2割減。そのうち90%が団体客のキャンセル。宴会等も少なく売上は減少。懸念されたGWは、直前になり間際予約(主に個人客)が多く入り、例年通りか前年比増という旅館もあり、消費意欲の回復が感じられた。震災前は、毎月700人(1~2月)を超える外国人宿泊者数があったが、震災後はほぼ「0」。リピーターの外国人観光客が戻りつつあるが、大阪 東京間を4~5泊で観光する(所謂ゴールデンルート)旅行客は増えず、福島原発の終息宣言等がなければ、震災前の水準まで回復は難しい。商工会議所で実施される「おもてなし中国語講座」は、今後に向け意義の深い事業と考えている。GOGO商品券については、様子を見ている状況。

向こう3カ月の見通し 梅雨明けの時期で左右されるが、夏休みへの期待感はある。津波への不安感はあるが、海の魅力は根強く、蒲郡の安全性を訴え続けたい。秋から開始される「オンパク」は、1つの施作のスタート。継続が必要で、まち全体で取り組み、蒲郡の魅力に触れリピートして欲しい。また、日本自動車工業会の休日シフト変更により、水曜・木曜の予約が入ってきているが、平日料金であり収益は少ない。しかしながら、平日の売上を伸ばすと共に、週末の予約を確保する事で、宿泊者数および売上の増加に繋げたい。(観光部会)

### (旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-87.5	-62.5	0.0
②製品・商品在庫	0.0	12.5	0.0
③資金繰り	-25.0	-25.0	-25.0
④採算(収益)	-62.5	-25.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-62.5	-37.5	12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-25.0	12.5



#### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H23.1~3月	4~6月	4~7月見通し
売上	8.3	-20.0	-37.5	-62.5	0.0
収益	15.4	-20.0	-50.0	-25.0	0.0
総合	7.7	-30.0	-50.0	-25.0	12.5

## 運輸通信業

売上DI値は△50.0、前期実績1～3月期(-25.0)に比して25.0ポイントの下降、収益DI値は△66.7、前期実績1～3月期(△37.5)に比して29.2ポイントの下降、総合判断DI値は△66.7、前期実績1～3月期(△25.0)に比して41.7ポイントの下降と、売上・収益・総合ともに悪化傾向である。

向こう3カ月の見通しについては、売上・収益・総合ともに、改善傾向である。

### 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-33.4	-50.0	16.7
②製品・商品在庫	16.7	0.0	0.0
③資金繰り	16.7	0.0	16.7
④採算(収益)	-20.0	-66.7	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	-16.6	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-66.7	0.0

### 【旅客・貨物輸送・水運】

3月に発生した東日本大震災の影響で、製造業は部品や資材調達環境悪化から、生産が停滞しており、貨物量も大きく減少。ここへきて自動車(部品)メーカー各社の稼働もようやく立ち直りつつあるが、地場の部品や原材料の荷動きは依然として鈍い。輸入は全体的に対前年7%台の伸びは見られるが、震災後の自粛ムードで国内消費が低迷する中、一部の合板等の建設資材に需要特需がみられるものの、木材等に原材料は微増に留まる。輸出は円高や震災による生産減と福島原発事故の影響で大幅に減少している。三菱自動車の完成車輸出台数は前年同期比で70%減となった。

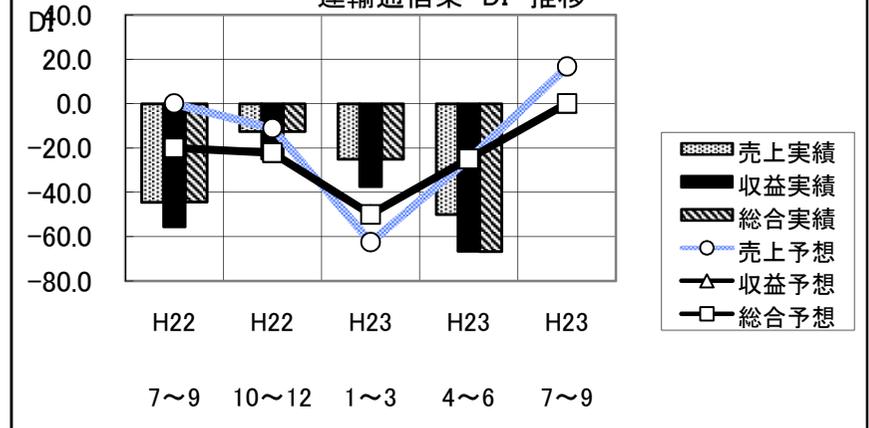
向こう3カ月の見通し 震災の影響が残る中、各メーカーの生産回復に時間がかかっており、燃料の高騰や高速道路料金の値上げもあり、運輸業界は引き続き厳しい状態が続く見込み。輸入は合板等の建設資材の需要増を背景に、前年同期から若干増加も、全体として低調に推移する見込み。輸出は海外での在庫が急減している事もあり、緩やかな増加基調だが、福島原発事故の影響で、先行きの不安感は拭かれていない、三菱自動車の完成車輸出は、海外の需要はるものの、円高と震災の影響による生産計画の見直しで、前年同期比で半減する見込み。(運輸交通港湾部会)

### (旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成22年4月～6月 に比べて	前期比 平成23年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成23年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	-40.0	40.0
②製品・商品在庫	20.0	0.0	0.0
③資金繰り	20.0	0.0	20.0
④採算(収益)	0.0	-60.0	20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	-60.0	20.0

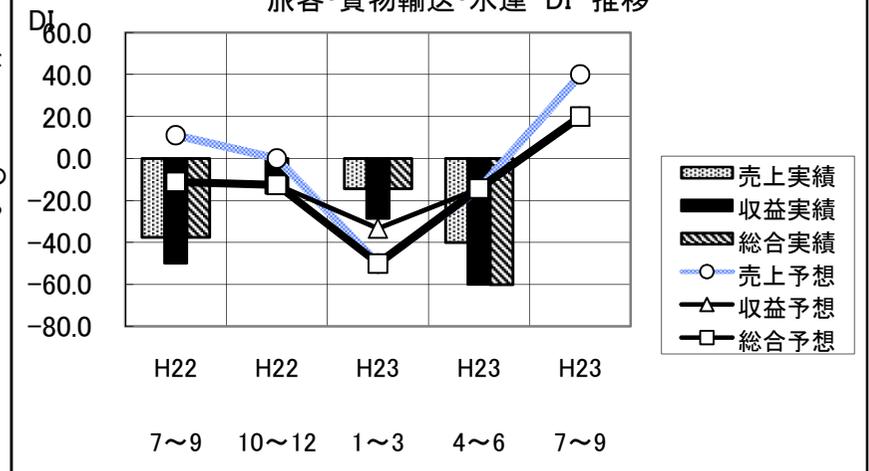
### 運輸通信業 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H23.1～3月	4～6月	4～7月見通し
売上	-44.5	-12.5	-25.0	-50.0	16.7
収益	-55.6	-25.0	-37.5	-66.7	0.0
総合	-44.4	-12.5	-25.0	-66.7	0.0

### 旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

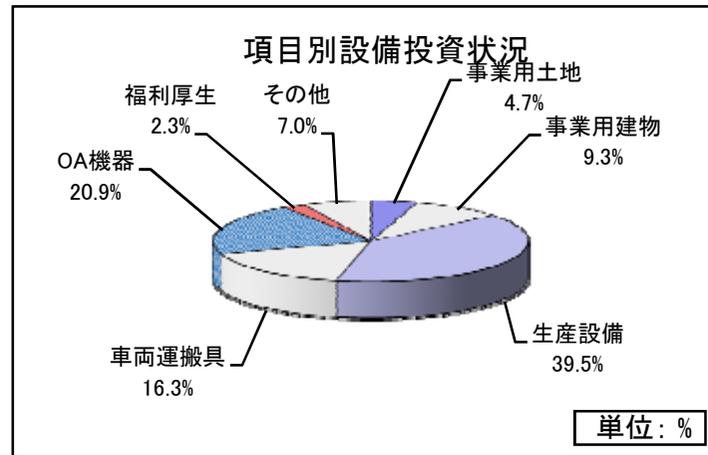
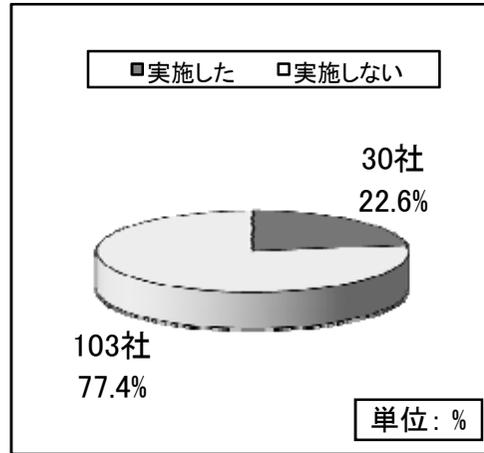


### <業況判断DIの推移>

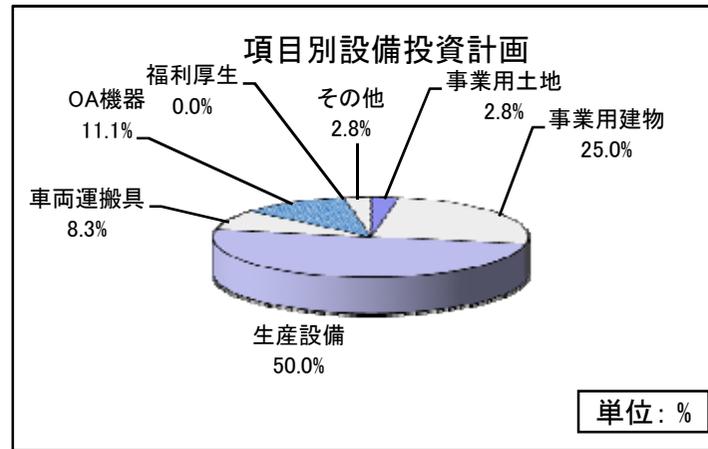
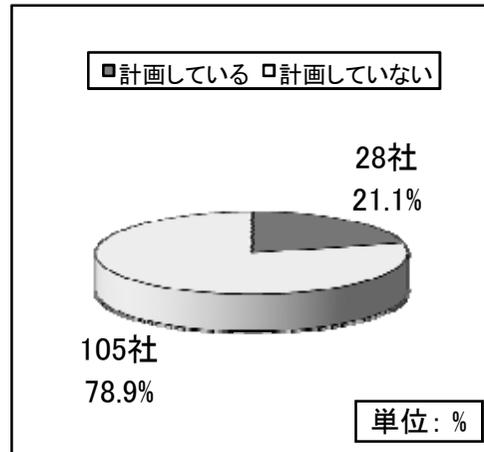
	7～9月	10～12月	H23.1～3月	4～6月	4～7月見通し
売上	-37.5	0.0	-14.3	-40.0	40.0
収益	-50.0	-16.6	-28.6	-60.0	20.0
総合	-37.5	0.0	-14.3	-60.0	20.0

## 7. 設備投資動向

＜今期(H23. 4～6月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H23. 7～9月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	2	1
事業用建物	4	9
生産設備	17	18
車両運搬具	7	3
OA機器	9	4
福利厚生	1	0
その他	3	1
計	43	36

(単位: 件)

◎今期(H23.4～6月)、来期(H23.7～9月)設備投資実施、計画動向

(単位: 事業所)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H23. 4～6月)	30	19	1	1	3	5	1
2. 来期 (H23. 7～9月)	28	17	0	3	2	5	1

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 133 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	88 66.2%
2	利幅の縮小	64 48.1%
3	原材料(燃料)高	58 43.6%
4	競争激化	47 35.3%
5	消費者ニーズの変化の対応	19 14.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 50 社	原材料(燃料)高 30 社 60.0%	売上の停滞・減少 29 社 58.0%	利幅の縮小 27 社 54.0%
建設業 13 社	利幅の縮小 13 社 100.0%	売上の停滞・減少 10 社 76.9%	競争激化 6 社 46.2%
卸売業 19 社	売上の停滞・減少 13 社 68.4%	原材料(燃料)高 12 社 63.2%	利幅の縮小 8 社 42.1%
小売業 31 社	売上の停滞・減少 19 社 61.3%	競争激化 13 社 41.9%	利幅の縮小 12 社 38.7%
サービス業 14 社	売上の停滞・減少 12 社 85.7%	消費者ニーズの変化の対応 7 社 50.0%	競争激化 5 社 35.7%
運輸通信業 6 社	売上の停滞・減少 5 社 83.3%	原材料(燃料)高 4 社 66.7%	競争激化 2 社 33.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

# 付帯調査(地域データ)

No.51

番号	調査項目	単位	H23. 7報告	基準日	H23. 4報告	基準日	H23. 1報告	基準日	H22. 10報告	基準日	出典
1	人口	人	80,806	H23.6.1	80,898	H23.4.1	81,036	H23.1.1	81,156	H22.10.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳 (日本人のみ)
2	世帯数	世帯	29,234	H23.6.1	29,206	H23.4.1	29,131	H23.1.1	29,098	H22.9.1	"
3	15才～65才生産人口	人	50,937	H23.6.1	50,965	H23.4.1	51,203	H23.1.1	51,794	H22.10.1	蒲郡市 市民課
4	外国人登録者数	人	2,051	H23.6.1	2,035	H23.4.1	2,080	H23.1.1	2,100	H22.9.1	"
5	建築確認届出件数	件	102	H23.6.1	107	H22.12～H23.2月	136	H22.9～H22.11月	109	H22.6～H22.8月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
6	全国完全失業率	%	4.5	H23.5月 ( )	4.6	H23.2月	5.1	H22.11月	5.1	H22.8月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	3.7	H23.5月	3.9	H22.10～12月	3.9	H22.7～9月	4.8	H22.4～6月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
7	全国有効求人倍率	倍	0.61	H23.5月	0.62	H23.2月	0.57	H22.11月	0.54	H22.8月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.43	H23.5月	0.52	H23.2月	0.45	H22.11月	0.36	H22.8月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

(※) 統計数値に、岩手・宮城・福島を除く集計です。

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除)前年比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 前期比(%)年率	消費支出 前年同月比% 実質	新車販売台数 (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515.0		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	520.0		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	514.0		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	508.0		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	513.0		▲ 1.2	-
2001年度	平均 340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	492.3	▲ 0.8	▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	489.9	▲ 0.8	▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	493.7	2.1	▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	498.5	2.0	0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	503.2	2.3	▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	510.9	2.3	▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,060,741	560.5	2.4	0.9	342.8
2008年1月	256	3.8	0.98		86,971			3.6	24.1
(平成20年)2月	266	3.9	0.98	4.6	82,962	141.1	1.3	0.0	32.2
3月	268	3.8	0.95		83,991			▲ 1.6	47.1
4月	275	4.0	0.93		97,930			▲ 2.7	23.2
5月	270	4.0	0.93	1.1	90,804	137.2	▲ 0.3	▲ 3.2	22.1
6月	265	4.1	0.90		100,929			▲ 1.8	28.1
7月	256	4.0	0.88		97,212			▲ 0.5	30.2
8月	272	4.1	0.85	▲ 5.2	96,905	137.3	▲ 1.1	▲ 4.0	19.3
9月	270	4.0	0.83		97,184			▲ 2.3	31.0
10月	255	3.8	0.80		92,123			▲ 3.8	23.3
11月	256	4.0	0.76	▲ 23.3	84,277	138.4	▲ 4.5	▲ 0.5	21.5
12月	270	4.3	0.73		82,197			▲ 4.6	18.3
2009年1月	277	4.1	0.67		70,688			▲ 5.9	17.4
(平成21年)2月	299	4.4	0.59	▲ 36.9	62,303	126.5	▲ 10.3	▲ 3.5	21.8
3月	335	4.8	0.52		66,628			▲ 0.4	32.3
4月	346	5.0	0.46		66,198			▲ 1.3	16.6
5月	347	5.2	0.44	▲ 37.7	62,805	127.6	▲ 7.0	0.3	17.8
6月	348	5.4	0.43		68,268			0.2	24.3
7月	359	5.7	0.42		65,974			▲ 2.0	28.9
8月	361	5.5	0.42	▲ 27.0	59,749	128.7	▲ 6.3	2.6	19.8
9月	363	5.3	0.43		61,181			1.0	32.1
10月	344	5.1	0.43		67,120			1.6	26.3
11月	331	5.2	0.43	▲ 4.8	68,198	136.3	▲ 1.5	2.2	29.3
12月	317	5.1	0.43		69,298			2.1	25.0
2010年1月	323	4.9	0.46	20.7	64,951			1.7	23.8
(平成22年)2月	324	4.9	0.47	27.9	56,527	133.7	5.6	▲ 0.5	29.4
3月	350	5.0	0.49	12.7	65,008			4.4	44.3
4月	356	5.1	0.48	29.8	66,568			▲ 0.7	22.2
5月	347	5.2	0.50	13.9	59,911	131.6	3.1	▲ 0.7	22.8
6月	344	5.3	0.52	21.3	68,688			0.5	29.3
7月	331	5.2	0.53	19.9	68,809			1.1	33.3
8月	337	5.1	0.54	37.8	71,972	134.9	5.0	1.7	29.0
9月	340	5.0	0.55	12.4	71,998			0.0	30.8
10月	334	5.1	0.56	19.6	71,390			▲ 0.4	19.3
11月	318	5.1	0.57	17.5	72,838	139.3	2.2	▲ 0.4	20.3
12月	298	4.9	0.57	6.5	74,517			▲ 3.3	17.9
2011年1月	309	4.9	0.61	27.0	66,709			▲ 1.0	18.7
(平成23年)2月	302	4.6	0.62	29.2	62,252	132.3	▲ 1.0	▲ 0.2	25.2
3月	304	4.6	0.63	4.7	63,419			▲ 8.5	27.9
4月	309	4.7	0.61		66,757			▲ 3.0	10.8
5月			0.61		63,726				14.2
6月									22.5

(総務省)

(厚労省)

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。